



株式会社グリーンメディック
代表取締役の多田耕三さん
(左)と同じくプロダクト部
門 クリエイトマネージャー
の仲原美樹さん。「グリーン
メディック・芦屋局」にて。

PFUスキャナー 導入事例

調剤
薬局



株式会社グリーンメディック
グリーンメディック・芦屋局
業種：調剤薬局



「fiシリーズ」で患者自身が処方箋を 読み取ることで、**無人受付**を実現

処方箋OCRによるレセコン自動入力と調剤の物流革命で薬局の在り方を変える

兵庫県芦屋市の「グリーンメディック・芦屋局」は、大阪府豊中市に本局を置く調剤薬局「グリーンメディック」が、今後求められる調剤薬局像を具現化するために開いた最先端の薬局です。従来の半数の人員で業務を回せるよう全面的にITを導入している中で、無人受付に設置したネットワークスキャナー「fi-7300NX」と調剤薬局向け処方箋入力支援AI-OCRサービス「薬師丸賢太」による処方箋の読み取り・自動入力システムは、在庫管理の自動化を実現する薬局ロボットと並ぶ同局のキーマイテムになっています。本格稼働直前(2023年2月)の同局を訪ね、システムの全容と目指す薬局像をうかがいました。

- 課題** 大病院の門前薬局やメディカルビル薬局など従来の形態に留まらない、患者に新しい価値を提供できる調剤薬局像を長年模索していた。
- 解決法** 無人受付に置いた業務用スキャナー「fiシリーズ」で患者自身が処方箋をスキャンし、処方箋専用AI-OCRによってレセコンに自動入力する仕組みを構築。全自動で薬品の在庫管理からピッキングまでを行う薬局ロボットも導入し、業務を高度にIT化。
- 効果** スキャンから始まるシステム連携により、半数以下の人員で定期業務を回せることが証明された。今後は調剤薬局に新しい価値を付加するため、患者向けのコンサルテーションに人員を割っていく予定。

患者と病院をつなぐバッファとしての「**会員制デジタル調剤薬局**」

— 調剤薬局「グリーンメディック」を展開する株式会社グリーンメディックの代表取締役で薬剤師の多田耕三さんにうかがいます。「グリーンメディック・芦屋局」は一見して薬局とは思えない、未来的な外観と内観を備えています。その目指すところをお聞かせください。

多田さん 当局はコンサルテーションに重きを置いた「会員制のデジタル調剤薬局」です。たとえば会員の方の病状に適したドクターの紹介、遅延型アレルギー検査、アクティブトラッカー貸し出しによる睡眠の分析と最適化などのサービスを提供することで、患者と病院の間をつなぐバッファのような存在になることを目指しています。

— エントランスの無人受付に設置された「fi-7300NX」は、外来患者の処方箋を受け付ける

ためのものでしょうか。

多田さん そうです。初めての方にはその場で会員になっていただき、処方箋をご自身でスキャンしていただけます。お薬は対面でお渡しすることもできますし、ピックアップ用のロッカーを利用して都合のよいときに取りにきていただくこともできます。近隣の方であればこちらで業者による配送を手配することも可能です。

「グリーンメディック・芦屋局」の内部。コンサルテーション用のブースが並んでいます。



無人の受付には会員証読み取り用のiPadと処方箋スキャン用のA4ネットワークスキャナー「fi-7300NX」が設置されています。



無人受付で患者が処方箋をスキャンするとレセコンに自動で入力される

— 処方箋の受け付けから調剤・投薬までの流れを教えてください。

多田さん 会員登録はLINEアプリで当方と友だちになっていたただけです。会員証のQRコードをiPadにかざすと表示される画面の指示に従って薬の受け取り方法を選択し、処方箋を「fi-7300NX」でスキャンしていただく受け付けが完了します。



無人受付では外来患者が自ら「fi-7300NX」に処方箋をセットしてスキャンします。

多田さん スキャンしたイメージデータは大阪府豊中市にある「グリーンメディック・少路局」の入力センターに送られます。するとNeoX株式会社の調剤薬局向け処方箋入力AI-OCRサービス「薬師丸賢太」がイメージデータから文字を認識し、内容をレセコン（診療報酬明細書を作成するシステム）に自動で入力します。

「薬師丸賢太」は画像認識に近い技術で対象を認識するため、一般的なOCRのように認識領域などを設定しておく必要がありません。そのため病院によってフォーマットが異なる処方箋も、「fi-7300NX」でスキャンしたイメージデータさえあれば文字認識と自動入力が可能です。

自動入力された処方箋データは、センターでの確認後に当局に返送され、紙にプリントアウトされます。我々薬剤師は処方箋データに記載されたバーコードをリーダーで読み取り、調剤監査システムにかけて処方箋に問題がないかチェックします。



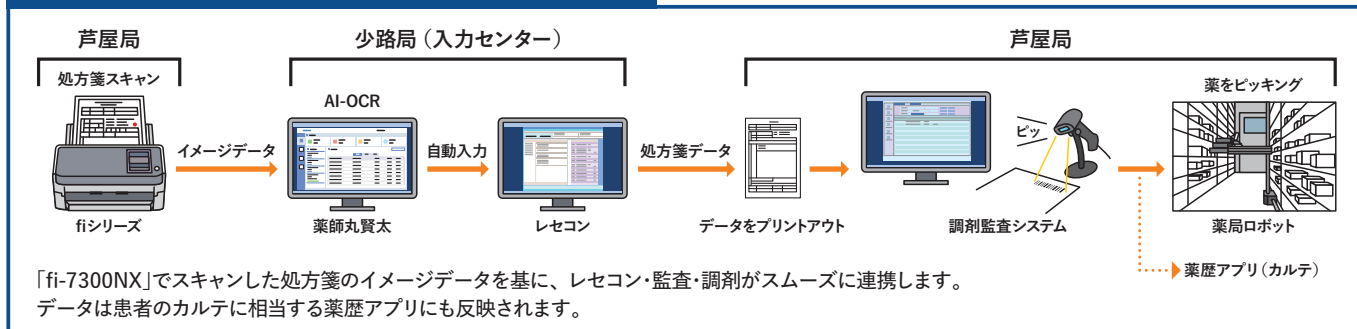
プリントアウトした処方箋データのバーコードを読み取り、調剤監査システムでチェックします。

多田さん 処方箋が監査を通ると、次は調剤です。当局では薬品の在庫や出庫、在庫管理まで全自動で行う薬局ロボットを導入しており、薬品のピッキングはそのロボットが行います。5,000種類の薬が収められたブースの中でアームが動き、1件3秒でピッキングします。



処方箋データが監査を通ると、ロボットが全自動でピッキングを行います。目にもとまらぬ速さです。

「グリーンメディック・芦屋局」の処方箋処理フロー



人員が従来の半数以下になり、余力をコンサルテーションなどに充てられる体制を構築

— 処方箋スキャン用にA4ネットワークスキャナー「fi-7300NX」を選択されたのは、Wi-Fi環境下でPCを介さずデータをシステムに直送するためでしょうか。

多田さん まさにその通りです。PFUのスキャナーは画像の質が高いこと、小型でどこにでも置くこと、患者自身が簡単にスキャンできる安定性が素晴らしいと思います。

— 高度なIT化によって、どの程度の効率化が実現しましたか。

多田さん 当局では高齢者施設350人分の定期的な調剤を一手に引き受けています。これを従来の一般的な方式でこなそうとすると薬剤師だけで4～5人が必要です。ところが現在、当局常駐の薬剤師は1～2人ですから、半分以下の人数で回していることになりました。機械に任せられるところは任せ、僕らはコンサルテーションなどに注力し、調剤薬局の新しい価値を創出していきたいと考えています。

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

